

皆さん、ご卒業おめでとうございます。佐賀女子短期大学や佐賀女子高校、こども園を運営する旭学園の理事長の内田信子です。皆さんは新型コロナウイルス感染が広がる中で入学してきました。友達と距離を置き、黙ってランチをとっている姿や、学校行事や実習が、中止や縮小に追い込まれ、我慢の日々を送っていることを陰ながら見守り応援してきました。よく耐え、頑張りました。こうして卒業の日を迎えられたことに心からの拍手を送ります。支えて下さいました保護者の皆さまも、晴れてこの日を迎えられたお嬢様の姿をどんなにか嬉しく見つめておられることでしょう。高いところからですがお祝いと御礼を申し上げます。

さて、最近私にとって大変嬉しいことがありました。佐賀県が、様々な分野で活躍している女性に贈る「佐賀さいこう表彰」が今年度、4人に贈られたのですが、そのうち3人が佐賀女子短期大学の卒業生だったのです。1人は毎年、介護分野の佐賀弁講座に講師として来て下さる、佐賀弁名人のいなばゆうこさん。1人は建設会社の取締役としてデジタル技術で業務の効率化を図るデジタルトランスフォーメーション、いわゆるDXに成功した重松恵美さん、そしてキッチンカーによる出張料理販売を起業した秋吉由紀さんです。

秋吉さんとは、去年、思いがけない形で再会を果たしました。秋吉さんは45歳。今年中学3年、中学1年、小学5年にあがる3人の男の子のお母さんでもあります。実は秋吉さんには去年3月、この会場で卒業証書をお渡ししています。

再会は去年9月のことでした。24時間歩きながら、がん患者などへの支援を呼びかける『リレーフォーライフジャパン佐賀』の会場でのことです。私はイベントが始まった2015年からボランティアをしているのですが、秋吉さんがキッチンカーの中から「理事長先生！」と声をかけてくれました。「今日初めてキッチンカーで出店出来ました」と、本当に嬉しそうに報告してくれ、「こうして出店できたのは佐賀女子短期大学のおかげです」と話してくれました。

ご本人に了解を得たので、お話ししますが、秋吉さんは3年前に入学したとき、既に乳がんと胃がんが見つかっていて、ステージ4と告知を受けていました。それまで老人ホームで調理員をしていたのですが、腕が上がりなくなり、重たいものを持つてなくなるかもしれないと、飲食店の開業を決意。社会人に道を拓く学費免除の委託訓練生に合格し、佐賀女子短期大学への入学を決めたのでした。去年の卒業後に、がんがさらに別の所に転移していることがわかり、飲食店のオープンは諦めましたが、キッチンカーを購入して開業にこぎつけました。彼女は2年間の佐賀女子短期大学での学生生活を振り返り、「栄養や衛生など様々なことを

教えて下さった先生方に心から感謝しています。美しいだけでなく『安心安全な料理』、料理の本当の美しさはそこにあると気づけました」と語っています。子ども達を育てながら病気と闘い、学校に通い、更に起業するというバイタリティーに私は衝撃を受けました。困難な中でも全力を尽くす姿は、私だけでなく多くの人たちを勇気づけてくれます。

学生数の減少から、食物のコースはやむなく閉じることになり、卒業生の皆さんは、このコースの最後の卒業生になりますが、昭和45年から50年以上に渡って送り出した2000人を超える栄養士の先輩たちは、今後も、きっと皆さんの支えになってくれることでしょう。

皆さんは今、希望に満ちてこの日を迎えている事でしょう。ですが長い人生には困難にぶつかることもあるはず。降りかかってきた困難を何とか乗り越えたいと思う時、学びが力になることもあります。

旭学園、佐賀女子短期大学は皆さんの母校です。母なる学校と書いて母校。困った時、もっと学びを深めたい時にはここにあなたの母校があることを思い出して下さい。私たちはあなたたちの幸せを、心から願い、その絆は卒業後も繋がっています。

皆さん、2年間、よく頑張りました。ご卒業おめでとうございます。

令和5年3月14日

学校法人 旭学園理事長
内田信子